

理科 第6学年 大地のつくり 検討会の想定問答

指摘 1：本時で何を見取るのか。

返し：「地層に含まれる物から、土地のでき方をどのように考えられるだろうか」について結果や資料を比べ、当初の説明を確かめ直して、より妥当な考えを表現している。結論だけではなく、どの事実を選び、なぜその事実で説明できると考えたかを見る。B(4)の学習を具体的な記録で確かめる。

指摘 2：活動だけで終わらないか。

返し：安全な場所で採取済みの礫・砂・泥・火山灰の標本を見比べ、粒の大きさや形を記録する。水で運ばれた土砂がたまる模型の様子と地層写真を照合し、化石や粒の特徴も証拠にしてでき方を説明する。活動後に中心の問いへ戻り、事実と説明を線でつなぐ。B(4)で求める理解と表現をそこで確かめる。

指摘 3：予想と違う結果が出た場合はどうするか。

返し：しま模様だけで川が作ったと決める場合は、火山灰の層の資料も示す。模型でできた層と実際の地層の規模や時間は同じではないことを確かめ、証拠からいえる範囲を示す。予想に合わせて結果を書き換えず、条件や資料の読み方を再確認する。B(4)に関わる考えを見直す学習として扱う。

指摘 4：説明や記述が難しい子にはどうするか。

返し：比較する記録を並べ、対象・条件・時期を指差して話せるようにする。化石や火山灰を手掛かりにでき方を検討する活動では、教師が比較の視点を示してから児童の言葉で説明を聞く。代筆や図の使用は認めるが、考えそのものを教師が決めない。

指摘 5：安全や個人への配慮は何か。

返し：崖や工事現場へ立ち入らない。地層の観察は事前下見した安全な場所か標本・写真で行う。粉じんを吸わないよう標本を散らさず扱う。実施前の点検ができない活動は共通の記録資料に替え、B(4)の問いを考える機会を確保する。

指摘 6：資料やICTはどのように使うか。

返し：安全な場所で採取済みの礫・砂・泥・火山灰の標本を見比べ、粒の大きさや形を記録する。水で運ばれた土砂がたまる模型の様子と地層写真を照合し、化石や粒の特徴も証拠にしてでき方を説明する。画面は拡大や並列表示に使い、端末がなくても印刷した同じ記録で比較できるようにする。ICTの操作の速さは評価しない。

指摘 7：時数の根拠と削る場合の考え方は。

返し：全9時間は東京書籍の年間指導計画による。各次の配分は本案の提案である。削る場合も「地層に含まれる物から、土地のでき方をどのように考えられるだろうか」を追究する記録と説明の時間を残し、同じ資料を読む重複や清書の方法を見直す。安全確認や実物を確かめる過程は省かない。

指摘 8：振り返りと次の指導をどうつなぐか。

返し：「地層に含まれる物から、土地のでき方をどのように考えられるだろうか」について最初の考え、証拠にした記録、まだ残る疑問を読み比べる。土地のつくりと変化を証拠を付けて説明する活動で証拠が不足した児童には、その記録を次時の導入に戻して確認する。態度は感想の長さではなく、調べ方や説明を見直す行動を継続して見る。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

